

製品安全データシート ダイアジノン粒剤 3

日本化薬株式会社
作成年月日：1993年 4月 1日
改訂年月日：2014年 8月18日

製品安全データシート

1 製品名及び会社情報

製品名 : ダイアジノン粒剤 3
会社名 : 日本化薬株式会社
住所 : 東京都千代田区丸の内 2 丁目 1 - 1
担当部門 : アグロ事業部
電話番号 : 03-6731-5325
FAX番号 : 050-3730-8045
緊急連絡先 : 平日昼間 アグロ事業部(電話番号 03-6731-5325)
休日・夜間 鹿島工場(電話番号 0479-46-2753)
メールアドレス : agro.info@nipponkayaku.co.jp
推奨用途及び使用上の制限 : 農薬

2 危険有害性の要約

重要危険有害性及び影響

有害性 : 火災の場合には、硫黄酸化物系などの有害ガスが発生する。
環境影響 : 鳥類、ミツバチに有害のおそれがある。
水生生物に対して毒性のおそれがある。

GHS 分類

物理化学的危険性	可燃性固体	区分外
	自己発火性固体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	皮膚腐食性/刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分外
	皮膚感作性	区分外
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分外
	特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分外
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	区分 1
	水生環境有害性(慢性)	区分 2

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示



注意換気語

警告

製品安全データシート ダイアジノン粒剤 3

日本化薬株式会社
作成年月日：1993年 4月 1日
改訂年月日：2014年 8月18日

- 危険有害性情報
- ・水生生物に有害
 - ・長期的影響により水生生物に有害のおそれ
- 重要な徴候
注意書き：
[予防策]
- ：本剤は有機リン化合物であり、有機リン剤に共通の症状を示す。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙はしないこと。
 - ・取り扱い後は良く手を洗うこと。
 - ・保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。
 - ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 - ・粉塵／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
 - ・汚染された作業衣は作業所から出さないこと。
 - ・環境への放出は避けること。
- [応急措置]
- ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。
 - ・皮膚についた場合：大量の水と石鹼で洗うこと。直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと。汚染された衣類を再利用する場合には洗濯、汚染の除去をすること。
 - ・眼に入った場合：清浄な水で15分以上洗眼する。医師の手当てを受ける。
 - ・飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。
 - ・皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。
 - ・漏出した場合：漏出物を回収すること。
- [保管]
- ・直射日光を避け、涼しく乾燥した場所に、密閉して保管する。
 - ・食品、飼料と一緒に保管しないこと。
- [廃棄]
- ・内容物／容器を適切な焼却炉で焼却処理するか、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理すること。

3 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名(又は一般名)：O, O-ジエチル O-2-イソプロピル-6-メチルピリミジン-4-イル ホスホロチオエート

成分及び含有量

成分	含有量(%)	CAS番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
ダイアジノン	3.0	333-41-5	5-923	8-(2)-458
シリカゲル	1.8	112926-00-8	—	—
炭酸カルシウム	94.5	471-34-1	1-122	
その他	0.7	営業秘密につき非公開		

危険有害成分：ダイアジノン(劇物)

4 応急処置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
直ちに医師の処置を受ける。
多量の水、温水またはうがい薬を用いてうがいをし、医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を脱ぎ、多量の水または石鹼水でよく洗い落とす。
速やかに医師の手当てを受ける。
- 目に入った場合 : 清浄な水で15分以上洗眼する。医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 吐かせないで、直ちに医師の手当てを受ける。
被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
速やかに医師の手当てを受ける。
- 最も重要な徴候及び症状に関する簡潔な情報
: 以下のような、有機リン剤に共通の症状を呈す。
瞳孔収縮、昏睡、痙攣、嘔吐、下痢、腹痛、流涎
- 応急処置をする者の保護
: 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。
- 医師に対する特別注意事項
: 本剤は有機リン系のコリンエステラーゼ阻害剤である。
解毒剤としては硫酸アトロピン、2-PAMが有効とされている。

5 火災時の処置

- 消火剤 : 噴霧水・泡消火剤・粉末ドライケミカル・炭酸ガス(適宜、状況に応じて使用する)
- 火災時の特定危険有害性
: 当該製品は分子中に窒素、燐、硫黄を含有しているため、燃焼ガスには硫黄酸化物系などの有害ガスが含まれる。消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する必要がある。
- 特定の消火方法
: 消火作業は、可能な限り風上から行う。
速やかに容器を安全な場所に移す。
移動不可能な場合は、周辺または容器に散水し冷却する。
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼさないよう適切な措置を行う。
- 消火を行うものの保護(保護具等)
: 消火に当たる者は、有毒ガスが発生するので呼吸保護具を着用する。
消火の際は適切な保護具(マスク、眼鏡、手袋)を着用する。

6 漏洩時の処置

人体に対する注意事項：漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。

処理時には保護具(防毒マスク、ゴム手袋、保護眼鏡、保護衣)を着用し、吸入したり、手足、顔などに付着しないようにする。

環境に対する注意事項：本剤は海洋汚染物質である。

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。

除去方法

：少量の場合

掃き集め、密閉容器に回収する。

大量の場合

粉塵が飛散しないように注意しながら、出来るだけ掃き集め、密閉容器に回収する。

7 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策

：炎、火花、もしくは高温体との接触または過熱を避ける。

取扱場所には、関係者以外の立ち入りを禁止する。

取扱いは換気のよいところで行う。

皮膚、粘膜または着衣に触れたり、目に入らないようにする。

発散した粉塵を吸い込まないようにする。

休憩場所には、手洗い、洗眼などの設備を設け、取り扱い後には手などをよく洗う。

食品や飼料への混入を避けること。

指定された場所以外では、飲食、喫煙しないこと。

保護衣、保護眼鏡、保護手袋など、適切な保護具を着用する。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの乱暴な取り扱いをしてはならない。

注意事項

：みだりに粉塵が発生しないように取り扱う。

安全取扱注意事項

：特別な情報はない。

保管

適切な保管条件

：直射日光を避ける。

涼しく乾燥した場所に、密封して保管する。

食品、飼料と一緒に保管しないこと。

高温体、裸火のそばに保管しないこと。

安全な容器包装材料：基本的には製品容器を使用する。

8 暴露防止及び保護処置

設備対策	： 局所排気装置の設置または全体換気を適切に行うことが望ましい。	
	： 取扱場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設ける。	
管理濃度	： 設定されていない。	
許容濃度		
日本産業衛生学会	： 勧告値	
	ダイアジノン原体	0.1 mg/m ³ (2002年度版)
ACGIH(2001)	： ダイアジノン原体	TLV: 0.1 mg/m ³
		(時間加重平均、経皮吸収性)
保護具		
呼吸器用の保護具	： 防塵マスク	
手の保護具	： ゴム手袋	
皮膚及び身体の保護具	： 保護衣(長袖)、保護眼鏡	

9 物理的及び化学的性質

物理的状态		
形状	： 細粒	
色	： 淡黄褐色	
臭い	： わずか硫黄のような臭気	
pH	： 該当しない	
物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲	： データなし	
引火点	： なし	
爆発特性	： データなし	
密度	： 1.5 g/cm ³ (20°C)	
溶解性		
溶媒に対する溶解性	： 溶剤に不溶、水に不溶	
オクタノール/水分配係数	： log P _{ow} = 3.42 (ダイアジノン原体)	

10 安定性及び反応性

安定性	： 通常取り扱い条件においては安定である。	
反応性	： 酸性下では分解が速い。	
	： アルカリ条件下では徐々に分解する。	
	： 酸化されやすい。	
避けるべき条件	： 酸、アルカリとの接触を避ける。	
	： 酸化剤との接触を避ける。	
危険有害な分解生成物	： 酸化物(ダイアゾクソン)	

製品安全データシート ダイアジノン粒剤3

日本化薬株式会社
作成年月日：1993年 4月 1日
改訂年月日：2014年 8月18日

1 1 有害性情報

急性毒性	：経口	ラット 雌	LD ₅₀ >2000 mg/kg
	経皮	ラット 雄	LD ₅₀ >2000 mg/kg
		ラット 雌	LD ₅₀ >2000 mg/kg
局所効果(皮膚、眼など)			
	：眼刺激性	ウサギ	投与24、48及び72時間後の観察で角膜、虹彩及び結膜に刺激性変化は認められなかった。
	：皮膚刺激性	ウサギ	陰性 (3日間観察)
皮膚感作性	：	モルモット	陰性 (24日間観察)
発がん性	：ダイアジノン	陰性	
	シリカゲル	陰性	
	炭酸カルシウム	陰性	
変異原性	：ダイアジノン	復帰変異、染色体異常、小核誘発性	：陰性
		DNA損傷	：陽性
	シリカゲル	陰性	
	炭酸カルシウム	陰性	
催奇形性	：ダイアジノン	陰性	
	シリカゲル	陰性	
	炭酸カルシウム	陰性	
生殖毒性	：ダイアジノン	陰性	
	シリカゲル	陰性	
	炭酸カルシウム	陰性	

1 2 環境影響情報

残留性/分解性	：	酸化分解または加水分解	
生態毒性(ダイアジノン粒剤5(5%含有製剤)の情報)			
水生生物	：コイ	LC ₅₀	283 mg/L (96 hr)
	オオミジンコ	EC ₅₀	0.015 mg/L (48 hr)
藻類	：緑藻	E _r C ₅₀	219 mg/L (72hr)
その他	：	Log Pow = 3.42 (ダイアジノン原体)	
		ダイアジノン原体は鳥類、魚類、ミツバチに対して毒性を有する。しかし、ダイアジノンは環境中で速やかに分解され、長期間の影響は引き起こさない。	

1 3 廃棄上の注意

残余廃棄物	：	下水道、いかなる水域、土地にも投棄してはならない。
汚染容器、包装	：	容器を3回洗浄し、つぶす。その際、環境や水の汚染を避けること。空容器を再利用してはならない。

1 4 輸送上の注意

国際規制

陸上：ADR/RID クラス9 PGIII

海上：IMDGコード クラス9 PGIII

航空：ICAO/IATA クラス9 PGIII

国連分類：クラス9（環境有害性物質）

国連番号：3077

国内規制

陸上：非該当

海上輸送：船舶安全法 危険物船舶運送及び貯蔵規則 第3条 有害性物質

航空輸送：航空法 航空法施行規則 第194条 その他の有害物件

輸送の特定の安全対策及び条件

：容器が破損しないように、混載するときは注意すること。
取り扱い及び保管上の注意事項に留意する。**1 5 適用法令**

農薬取締法 適用

毒物及び劇物取締法 非該当

消防法 非該当

労働安全衛生法 以下のものは第57条の2（通知対象物）に該当

名称	番号	含有率
ダイアジノン	343	3%
シリカゲル	312	1.8%

化学物質管理促進法（2009年10月1日に施行された改正法に伴う記載）

以下のものは指定化学物質に該当

名称	種別	番号	含有率
ダイアジノン	第一種	248	3%

環境基本法 ダイアジノン 水質要監視項目（指針値0.005 mg/L）

1 6 その他の情報記載内容の問合せ先：アグロ事業部
03-6731-5325改訂の記録：作成 1993年04月01日
改訂 2007年05月14日
改訂 2010年12月16日
最終改訂 2014年08月18日引用文献：国際連合 化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS）（改訂3版）
THE PESTICIDE MANUAL（第15版）
農薬抄録 ダイアジノン

製品安全データシート ダイアジノン粒剤3

日本化薬株式会社

作成年月日：1993年 4月 1日

改訂年月日：2014年 8月18日

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。すべての化学製品には未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願い申し上げます。また、記載事項は通常の取り扱いを対象にしたものですので、特別な取り扱いをする場合には新たに用途、用法に適した安全対策を実施のうえ、お取り扱い願います。